

津久井中央ロータリークラブ



事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F
TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830
例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30
会 長 前沢弘之 幹 事 井上 旭



第 1185 回 令和 1 年 6 月 6 日(木曜日) 《36》

司会 杉本信一 SAA 会長 前沢弘之 会長 斉唱 君が代 四つのテスト

会長挨拶 前沢弘之 会長

いよいよ 6 月です (何が「いよいよ」なのかよく分かりませんが)。

私、この会長挨拶の原稿に番号を振っているのですが、今日で No.30 です。1 回 10 分として、300 分 (5 時間)。まあ良くくっちゃべってきたものだと思います。喋るのが好きなんだと勘違いされてしまうくらい。ちょっと?、やり過ぎだったような気がします。何と云うか、1 年間のお喋りの全体が、私なりの「現代社会論」みたいなものになれば、自分がものを考えていく上で、現在の立ち位置のようなものを確認できるかもしれない…なんて変なことを考えてしまったのがいけませんでした。(あの、お気づきかも知れませんが、実は、私にはロータリーに関連した話をしようなんて考えは殆どなくて、自分が話してみたいことをロータリーにこじつけて話してきた感じです。ただ、こじつけようと思えば大抵のことはこじつけられて、図らずもロータリーの幅の広さや奥の深さを示すことになった…ということは出来るかも知れません。)

まあ、あんまり難しい話なんかではなく、本当は、気の利いた、洒落たエッセイのような話できればよかったのだと思います。それが大人

の社交というものだろうとは、思うのですけれど。

もっとも、例えば、前回の「(近代の) 時間の観念と未来志向といったものの総体と貨幣経済を基盤にした、綿密なスケジューリングとビジネスが、この巨大な文明を作り出した。」なんて、それだけ聞いたら何を訳の分からないことを言っているんだと怒られそうな話も、この一年間我慢を重ねて来られた皆さんは、「なんだかよく理解はできないけれど、貴方の言わんとするところは、何となく感覚で捉えられるような気がしてきた…」という感じには、なってきたのではないのでしょうか? あるいは、皆さんが、今後どこかでさっぱり訳の分からない話を聞かされる羽目に陥っても、自分はずっと訳の分からない話を 1 年も聞かされたから、別にどうということはない…なんてことになれば、本望です。

…まあ、ここまで来れば、もうどうしようもありません。今日も、やりましょう。年度当初に予告した話題の中で、一つ残ったものがあります。職業論ですね。

ただ、これは、手短かにまとめてお話するのはとても難しいので、今日は、ある童話を題材にお話ししてみます。新美南吉の「おじいさんのランプ」です。(小学校の国語で習ったような気が

【 出席報告者 田畑和久委員長 】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
16	16	14	2	87.50%	87.50%	100%
本日欠席者	高橋会員、具会員					

しませんか?)

—こんなお話です。

友達とかくれんぼをしていた孫が、蔵で古いランプを見つける。おじいさんに見せると、「おお、これは…。どれ、ひとつ昔話をしてやろう」と、孫に向かって語り始めます。

明治の終わり頃、巳之助という一人の貧しい少年がいた。巳之助は孤児で、隣近所の雑用のようなことをしながら村に置いてもらっていたのだが、こんな暮らしは嫌だ、男子たるもの、いつか身を立て名を上げたいものだと思っていた。しかし、そのために勉強しようにも、本1冊買うお金もない。字も読めない…。そんなある日、彼は頼まれた用事で大きな町へ行くことになった。初めて見る町は、とてもにぎやかで、立派な商店が軒を連ねていた。彼を一番驚かせたのは、その商店が、みな花のように明るいランプを灯していることだった。巳之助の村の夜は真っ暗で、ぼんやりした行燈の明かりぐらいしかなかったのだ。まさに文明の光だった。彼は、もらった駄賃で思い切ってランプを買うことにする。自分はこれからランプ屋になるから、卸値で売ってくれと店の主人にせがんで。村に持ち帰ったランプは、初めのうちこそ不人気だったけれど、やがてその便利さが分かると、飛ぶように売れ出した。そうして、巳之助はランプ屋として成功し、家を建て、所帯を持つことも出来た。そんなある日、彼が町へ行くと、道端に太い柱が次々と立てられている。電信柱だった。町に電気が引かれ、電燈が灯る。ランプより遥かに明るくて、火事の心配も、マッチも要らない。とんでもない商売敵が現れた…。やがて、巳之助の心配と反対をよそに、村の集会で、村にも電気を引くことが決まった。彼は、誰かを恨みたくてたまらなくなり、村の区長さんを恨むことにした。そして、ある晩、彼は区長さんの牛小屋の藁に火をつけに行った(※ラッドライト運動—産業革命期のイギリスで、失業の危機にさらされた人々が起こした機械破壊運動。※ユナボマー事件—数十年前にアメリカで起きた現代科学技術に対する連続爆弾テロ事件)。マッチが見つからなくて、火打石を持ってきていた。カチカチやっても、なかなか火がつかない。「ああ、マッチを持ってくればよかった。こんな古臭いものは、いざという時、役に立たねエ！」…

はっと気づくのですね。世の中が進んだのだ。ランプは、もう時代遅れなのだ。巳之助は、在庫のランプを全部持ち出して、石油を入れ、大きな池のほとりへ行った。まわりの木の枝にランプを50ほども吊るし、火を灯した。それから、足下の石ころを拾うや、ランプ目がけて力いっぱい投げつけた。パリーン。巳之助はランプ屋をやめて、町に出て本屋になった。

巳之助はおじいさん自身です。おじいさんは孫にこう言います。「わしの言いたいのは、こうさ。日本が進んで、自分の古い商売がお役に立たなくなったら、すっぱりそいつを捨てるのだ。いつまでも汚く古い商売にかじりついていたり、自分の商売が流行っていた昔の方が良かったと言ったり、世の中の進んだことを恨んだり、そんな意気地のねえことは、決してしないということだ。」

ざっと、こんなお話です。まあ、このおじいさんが、電子書籍だアマゾンの通販だなんて時代、それどころか、知識は書物からではなくてテレビやネットからお手軽に手に入れられる…なんて時代が来ることを予想していたかどうかは、定かではありませんが、私がいる業界などでは、かなり身につまされる話です。職業というのは、元々そういうものです。

子供に、「あなたは何になりたいの？」と(残酷な)質問をしたときに、「お母さん」「お嫁さん」「僕はウルトラマン」なんぞと言っていた子が、やがて職業を答えるようになる。近頃は小学校の段階で職業教育を始めたりするので、小学5、6年生にもなると明確に職業を意識するようになります。

しかし、職業というのは、ある時点の社会的分業体制の別名に他ならないわけですし、当たり前前のことですが、誰もがなりたいものになれてしまうと、世の中が回らなくなります。社会システムを維持できなくなってしまいます。職業は、そういうものなのであって、システム(あるいは社会)こそが主役というか、第一義的なのです。だから職業の有用性(役に立つ)ということが言われるのであって、システム(社会)にとって有用でない職業は(ランプ屋さんによ

ように) 要らなくなるわけです。言い換えれば (…というか、それを言っちゃあお終いのような話ですが)、職業による自己実現、自分がなりたい自分になるという次元は、二義的というか、元々そういう強い制限、限界のもとにあるわけです。

まあ、だから、子どもたちに対して、あんまり職業、職業と言いつてるのは、どんなものかと、むしろ、もっとゆるゆると、うちの末っ子のように「別に何になりたいというわけではないけれど、イイ靴を履いて、キレイなお嫁さんをもraitたい」ぐらいのところで丁度よいのではないか (これが小学生でも中学生でもなくて、高3だから、ちょっとやばい気がしなくもありませんが…)。そんなふうに考え始めてしまって、年度当初の目論見が、私の中で行き詰ったまま…というわけです。

そうは言っても、やっぱり青少年にとって「職業」は強い関心事であり、そこから目をそらすことは不可能に近い。だから、大人として何かを伝えるべきであることは間違いありません。そこで、もしも何かやるとしたらですが、おそらく、こんな一般論ではなくて、私自身が自分の職業についてどう考え、どう取り組んできたか。実際に何をやってきたのかという経験論しかないように思います。(ただ、これは簡単なようでいて、とても難しくて恥ずかしい…。)

それが、どんなものになるか。試しに次回、お話ししてみようと思います。

以上、性懲りもなく、「私の職業論」前編を終わります。



幹事報告 井上 旭幹事

ロータリー関係受領書類

グループ幹事

6月会長幹事会開催案内

相模原ニューシティ RC 相模原柴胡 RC

例会変更通知

その他の受領書類

津久井商工会

生活習慣病検診案内通知

相模原市福祉のまちづくり推進協議会

総会結果報告

相模原市国際化推進委員会

総会資料、総会開催結果報告

相模原市社会を明るくする運動推進委員会

第69回相模原市社会を明るくする運動推進

委員会開催結果

次年度に向けて

井上 旭会長エレクト

次年度ですが、自分の方針と皆さんの方針に沿ってやっていくつもりですが、できれば会員の皆さんの職業に関して、今日までずっとやってこられたことを毎月一人か二人ずつ、お話しして頂きたいと思っています。

なぜ、そのような事をするのかと言われるかもしれませんが、それぞれの自分の職業があり、家庭の応援もあって、こうしてロータリーの活動ができるので、生活基盤というものは自分の職業にあると私は考えております。そんなことで、ちょっと話が逸脱してしまうことがあるかもしれませんが、是非よろしくお願ひしたいと思っています。

また、なるべく皆さんの意向を聞いてやって行きたいと思っています。

スマイル報告 田畑和久委員長

『スマイル報告 田畑和久委員長』

津久井中央 RC

- 前沢弘之会員 お暑うございます。八木さん、大根をいただきました。
夏ですね。いよいよ新年度ですね。
- 井上 旭会員 八木さん、野菜いつもありがとうございます。今年度最後の月になりました。
これから色々やる事が多く、気が滅入りそうです。
- 山崎和彦会員 今日は暑いです。まだ体がなれてないので、気をつけたいです。八木さん、「にんにく」ありがとうございます。食べて元気になります。
- 小山里枝会員 八木さん、大根とニラ、ありがとうございます。久しぶりに君が代、ロータリーソング歌えました。さて、前のポストをあてにして来たのですが、無くなっていました。設置は検討中とのことでした。
- 杉本信一会員 本日朝の山に会いに行きます。急に忙しくなり、早いちゃんこの会になりました。
- 森田正紀会員 八木さん、野菜をいつもありがとう。
- 吉野賢治会員 八木さん、新鮮野菜ありがとうございます。最近体力のおとろえを感じています。健康の為に野菜を食べる様に心がけています。
- 小川洋一会員 幸せに感謝。
- 水野 茂会員 今日は書くことがないのでスマイルします。
- 八木 勉会員 野菜の売上げ金をスマイルします。
- 池田豊文会員 息子の小学校卒業記念の DVD がやっと作り終わりました。製作期間、夜な夜な6ヶ月、、再生時間 15分。作るのが大変なので、もう作りたくありませんが、あと一人、下の娘が残っているのでまた作らなければなりません。とりあえず解放されたのでスマイルします。
- 田畑和久会員 明日、飲み友達の通夜です。階段から落ちて亡くなったとの事。よっばらいの皆さん、充分御注意下さい。私が一番危ないか…。